酒々井町
郷土研究会々報
第41号
昭和61年7月1日
発行
酒々井町郷土研究会
総務部

石仏

加川 治良

なにげなく、歩いていて見過ごしてしまう道ばたの石仏、何のため誰が建てたのだろう。石仏に聞いてみたい、そんなことを思ってしまいます。

相京会長さん他、郷土研の皆さまの努力で町内の石仏を調査され、その全体が分ってきました。記録されてきました。一基一基の石仏が、ドラマを語ってくれるのを聞いてみたいと思います。

下岩橋地区の石仏〃町内史跡めぐり〃で御覧になったでしょうか。県内でも珍しい〃双体道祖神〃です。では何故双体道祖神信仰が酒々井町に根付いているのか？道祖神は、古くから、村々に侵入してくる災いを防ぐための神仏ですから、恐しい(?)青面金剛のような造像が多いのですが……（ワラで大蛇をつくる風習も同じ）……酒々井町の双体道祖神は、やさしい。きっと町の人々のやさしさなのでしょう。

双体道祖神は、村の豊穣を願うことから、人間的な温みを持っているようです。双体を男女と区分するのは推定です。

酒々井町に現在ある双体道祖神はほとんど僧形です。下岩橋の小さな双体道祖神は、一体の肩に手を置き、杖を持つ手に手を重ねている、ほほえましいものです。しかし、道祖神を管理している高橋さんの話では、「北向きの道祖神は、恐いだ」と言うことです。宗吾霊堂に登る坂の途中、七社神社にある双体道祖神は、珍しく俗体ですが、これは明治になってからの造像で、原形は僧形であると思います。何故僧形が多いのでしょう？それはナゾ(?)で、一つの推理を出しましょう。これらの双体道祖神は、〃同行二人〃と言うことではないでしょうか。よく〃おへんろさん〃の笠に、同行二人と書かれています。弘法大師と一緒におへんろすると言う信仰です。今でもお年寄りで、講を組み、おへんろする風習が、酒々井町に残っています。

きびしい江戸時代、農民は村から一歩も外に出られない自治制でしたが、外に出られる方法が信仰のためでしたから、出羽三山まいり、大山まいり、とかで村を離れました。そのへんろみちに道祖神を安置する。村に入る災いを防ぐとともに村に入る人々を温く迎える。この全く反対な風習（むずかしくは、人間のきよめとけがれのことですが……）は、丁度農業（稲作）の稲の一生なのですが、そこに、豊穣の稲作を願う、農民の切実な願いとしての、和合の双体道祖神信仰があるように思います。本当に双体道祖神は、人間の、心のなかを見ていませんか。

下岩橋には、皆さんが多分見過ごした、ちょっと大きな地蔵さまがあります。台座に〃天保九年　女人講云云〃と記録されています。天保九年は東北地方の大飢饉があり、〃中(七年)年稀成凶作ニ而……（町史・史料集(一)下台村）〃と言う凶作の後年に当ります。凶作から脱した喜びが聞えないでしょうか。又印旛沼で死んだ子供たちの供養とも思われます。しかし、何故〃女人講〃と言う、沢山の女の人達の講名をつらねるのか、石仏たちは、いろいろなドラマを語っていないでしょうか。……

野草

佐藤康子

むらさき

紫匂いし武蔵の野辺に――

昭和の初期、小学生の私は十月一日には必ず此の歌を唱いました。唯東京市の日の式典の歌として、意味もわからぬまに。十代半ばには、例の額田女王と、大海人皇子（後の天武帝）との相聞歌に胸をときめかしました。とは言え花については紫色のイメージのみ、真白い五弁のはこべ位の小さな花と知ったのは、つい五、六年前のこと、白と紫が結びつかなかったのですが、根の浸出液と媒染剤の椿の灰汁を用い

むらさき

"何ヶ月もかゝって染め上げる濃紫それ故に最高位を現す高貴な色とされたのだそうです。明治初め迄は栽培もされていたとのこと、ムラサキ科の多年草。

露草（ほたる草）

日本各地、何処にでもある文字通りの雑草ですが、色、形、朝咲いて昼近くにはしぼむはかなさは、やはり忘れ難い存在です。此の花の色素で染めあげたのが縹色（花色）と呼ばれる青色です。絞り染めの下絵書きに

つゆくさ

使った青花もたしか此の花が原料ではなかったかと思います。ツユクサ科の一年草。

見学記 一宮方面

中村　寛

緑色に輝く美しい空気を満喫しながら、私達A班三十二名を乗せたバスは、目的の茂原市本納の橘神社に着きました。

神社の境内には、人っ子一人居らずまことに静かな雰囲気が我々を迎えてくれました。橘神

社は日本武尊が、東征の折入水した弟橘比売を哀れみ、比売の櫛を埋めて陵を築いて祀った神社だそうです。

橘神社をあとに、旦々とした田舎路を、一ノ宮の玉前神社へとバスは適当なスピードで走る。うっかりすると見逃すような街なかのお宮の入口でバスは停る。境内には小学生が先生に連られて写生に来ていた。無心に一生懸命写生している子供達の姿を見ると、一瞬気持が和み なんとなくさわやかな気分になる。

次に田んぼの真ん中にのこる法興寺の旧跡を見学し、真言宗法華寺を尋ねる。寺にはお婆さん一人が留守をしておられた。この寺は遠山の金さんの菩提寺で裏山には遠山家の墓石がある。本尊の阿弥陀様は室町時代の作で異国調であるのが珍しかった。

さきほど田の中の旧跡を見た法興寺の本堂につく。丁度お昼時で、静かな本堂ですし弁当をいただく。本堂での食事も味なもので楽しかった。食後寺山の植林の折発掘された、つぼや瓦や県指定文化財の磬と言うお経を唱えながら時々打ち鳴らす楽器を見せていただく。然し本来神社仏閣は信仰の場であって、仮令すぐれた文化財がなくとも、訪れる意義が十分にあるという事を理解しておきましょう。

NHK見学記

尾畑　真津江

朝、霧雨がいり天気の心配をしながら、集合場所へ急ぎました。総勢21名。平日でもあり都会の人混みの中で、はぐれないようお互いに気をつけ、NHK放送センターにたどりつきました。

全国の修学旅行コースでは、第四位だそうです。修学旅行生の方達と一緒に館内を廻り、朝のドラマ「はね駒」の撮影風景、小道具等が展示され楽しくみることができました。丁度「昼のプレゼント」の生放送番組に参加させて頂き、画面では見られない一つの番組を作るには、20名位の影の力によって作られていることを知り、人々の和の中に一つの物が成り立っていく大切さを感じ、人、物に心からあわせ参加し、夢中で手の痛くな

資へ

る程拍手をし、短時間の番組見学が終りました。新緑の明治神宮の玉じゃりを踏みしめ参拝。NHK見学にご一緒させて頂き人と人との出逢い、ふれあい、心暖まる多くの物を感じとる事が出来、お世話して下さった方、ご一緒して下さった方々、一日を過させて頂いた事に感謝しております。ありがとうございました。

委員会だより（1）

見学会の楽屋裏

旅行　委員会

酒々井町郷土研究会の活動の中に幾つかのメーンがあるが、其の一つに見学会がある。四半期毎に行なわれる県内見学会と、観光バスを使っての日帰り県外見学会、そして一泊の県内外見学会がある。

県内見学会は町バスを使う関係上県内に限られるが、そのかわり昼食弁当付きで一人千円と飛切り安い。これが人気のあるゆえんかも知れない。毎回ABC班の三回催行しているが、何時も満席で参加出来ない人も数多い。しかし喜んでばかりいられない。何故なれば県内の場合見学地のゆきづまりである。有名な神社仏閣名勝旧跡等ほとんど見学し盡して、新しい見学地を探すのに大変な苦労をしている。いい所でもバスが行かれなかったり、県外の場合さらに深刻である。観光バスなぞ金額の決定が大変。営利目的でないので儲けるわけにはゆかず、といって損をするのも困る。人数の把握に苦労する。バスを手配して出発となって、十人二十人と欠席者が出ると会計の面で目茶苦茶になる。

でも、最近は役員会の前に小委員会を開いて、おおよその行先等選考して役員会にかけるようにしている。幸い各委員共非常に熱心に此の問題に取組んでくれているのが唯一の救いである。手弁当で一日つぶしての会合をして、候補地が決まると車で下見に行く。これも全部各委員の奉仕である。バスの中のおしゃべりで楽しく旧交を温めるのも良いものだが、引率者の説明に耳を傾けて、何か一つでも得るものを持って帰って頂きたい。

清掃にご協力を

文化財愛護委員会

古い歴史のある我が酒々井町には多数の文化財があります。

去る三月三十日の午前中、上岩橋貝層と横穴古墳、午後から伊篠松並木、さらに四月十二日には墨のさらしなしようま群生地の草刈清掃を行いました。午前中の参加人員僅か七名にがっかりしましたが、午後からは二十四名、墨の時には会員十九名と地元の方三名の参加があり、茶菓の接待までしていただきました。

酒々井町の文化財を長く保存し、後世に伝えるために、会員の皆様のますますの参加をお願いいたします。

おいしい山菜を

献立委員会

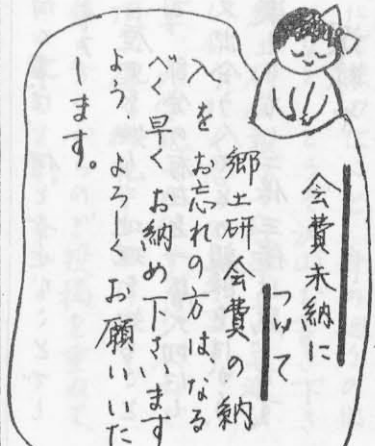
山や野原や水辺に自然に育ったまの物を上手に調理して食べる。まさに山菜のおいしさは、自然の味にこそあるのです。

四月も中旬になりますと各地の山菜だよりも気になって参ります。野草の会でも献立委員の皆様にお集り願ってお献立を考える事から始まりました。

御飯、酢の物、揚げ物、煮物、汁物、デザート等きまりまして採集の手筈です。日をあらためて朝から会長さんの車にお世話になりまして、わらび取り、竹の子掘り、竹の子は田村さんが何回にも分けて茹でて下さいました。"のびる"は田村さん茹さんが採取して大変な量をこしらえて下さいました。

当日はお手伝いをして下さる方々二十名余り、手際よく数々のお料理が出来上ります。尚当日になって持参下さった山菜が早速調理されて品数もふえ、皆様に賞味して頂けたことと思います。

採集調理と御協力下さいました皆様有難うご座居ました。



会費未納について

郷土研会費の納入をお忘れの方は、なるべく早くお納め下さいますよう、よろしくお願いいたします。

十周年を迎えて

会田　秀雄

「光陰矢の如し」の諺の通り今年は郷土研究会が発足して丁度十周年を迎え一つの節目にまいりました。今日まで種々の行事が行われましたが、事故一つなく平穏無事に過してこられたのも会長さんの熱意と努力の賜物であると心から敬意と感謝を申し上げます。

顧りみますと新旧の会員の皆様とお近づきになれ、いろいろの行事に出席して友情が生まれ、希望にみちた日々を送る事が出来ました。皆様もご存じの尾崎秀実氏の小説、「愛情は降る星の如く」の中に「さんぜんと輝く星の中で友情は一番星の如く輝いています。」と言っています。私もこの一節と同様に、友情を大切に希望の持てる会を、皆様と共に益々発展させて行きたいと心から祈念するものであります。

病院への短信

高橋　継子

「はい、お祖母ちゃん、千葉からですよ。」そう言いながら看護婦さんが義母に手渡してくれるという。

わが家の近況は病院に行くと一番早く、最も詳しく判ると夫の実家の人達によく言われる。

自分の夫のことを書くのは気恥ずかしいが、若い頃から筆まめだったが未だに衰えない。特に近年は寝たきり老人となり、遂には入院した群馬の義母への短信を心掛けているようだ。ちょくちょく見舞に行けぬ何分の一かの代りのように、折にふれ手すめに差し出している。

病人には何よりの慰みであろう。渡された手紙を手にして、米寿を過ぎた義母は涙しながら何度も何度も読むと、付添の義姉が会う毎に話してくれる。

何回かに一度の割で義母から返事が来ていた。不自由なベットで、幸い麻痺は免れたものの不自由な手で書いて。

夫に言わせると、それが「呆け」の進行を遅らせてきた一つだという。

文夫な頃は達筆な手紙をよくくれた義母だったが、年とともに回数が減ってきた。

最近は減多に来なくなったし、字や文面のひどい乱れが私は悲しい。でも夫は相変らずせっせと書き続けている。

泉をかこんで一休み
くんでもつきない泉のように
よもやま話がつづきます
どうぞ　あなたも　お仲間に

楽しい出合い

山内　智香子

太陽の光と、青い空気を、体にしっかりと受けとめて、足どり軽く郷土研究会の見学会に出向く事は、何と幸せなことでしょう。

歴史を知り、地理を知ることで、自分の存在を一層大切にし、又出会う人々との親睦をはかり、楽しさも、二倍三倍に感じます。

深緑や
竹林に有る
風のゆれ

山鳩の
ホロホロ鳴くや
法興寺

これからも機会有るごとに、出来るだけ参加致したいと思って居ります。

お世話下さる役員の皆様のお心遣いに深く感謝致し、又会員の皆々様には、増々お元気でお過し下さいますよう、次回の出合いを楽しみに致して居ります。

六月五日記

郷土研日誌

月日	業事内容	参加人数
4月5日	古文書学習会	10名
〃12日	墨さらしなしょうま群生地草刈り	19名
〃16日	山菜を食べる会の献立づくり	10名
〃24日	山菜採取	8名
〃26日	山菜を食べる会	64名
5月10日	古文書学習会	10名
〃11日	名所探訪 NHK外	32名
〃15日	〃 〃	21名
〃22日	茂原一の宮方面見学会 A班	32名
〃27日	〃 B班	38名
6月4日	〃 C班	37名
〃14日	郷土研運営委員会	23名
〃15日	町内史跡めぐり	23名

会計報告

4月26日（山菜を食べる会）

収入	会費 500×64人	32.000.-
支出	材料費外	24.744.-
	差引 残金	¥7.256円也

5月22日, 27日, 6月4日

（県内見学会）

収入	会費 A.B.C合計 1,000×107人	107.000-
支出	弁当代 3回合計 540×112	60.480-
	灯明料 6000円×3	18.000-
	バス代 8000円×3	24.000-
	計	102.480
	差引 残金	¥4.520円也

見学会案内

県外見学会　9/18(木)

○佐正寺

曹洞宗の古刹で浅野家の霊廟のあること、四十七士の木像のあることで知られている。

○雨引観音

坂東三十三観音のうち第二十四番札所、楽法寺である。茨城県真壁郡大和村の標高四百九メートルの高所にあり、本尊は延命観世音で、安産子育の霊験著しく参拝者が多い。

光明皇后は自身の安産祈願のため法華経一巻を書写して奉納したと伝えられ、それ以来皇室の安産子育の祈願所となった。

昭和三十四年十月 皇太子浩宮御出産のときは、住職が随員と共に宮中に参内して、お守りを奉呈している。

○フラワーパーク

花と緑の楽園。茨城県営の大園芸場である。

大温室、展示温室、花木見本園、バラのテラス、四季の丘、水と草花の谷、芝生の丘、展望テラス等々楽しい場所がいっぱいである。

名勝探訪

○成田山　7/12(土)

成田山公園、大塔、霊光館を中心にして近くて遠い名勝探訪をいたします。

江戸川方面　9/21(日)　9/25(木)

今から千二百六十五年前、養老五年の戸籍の残っている古代からの集落甲和里（小岩）は古代から江戸時代まで交通の要所であった。その名残りの道標、関所跡などを見て、樹齢六百年の紅枝垂の松のある善養寺へ行く。この寺には東京都指定の文化財の石碑などもある。

バスに乗って名主屋敷へ。江戸時代この地を開墾し、代々名主を勤めた島家住宅。長屋門は去年火災にあったが母屋や屋敷は昔のたたずまいをよく残している。また、バスで香取神社の貝塚へ、そして江戸川区郷土資料室を見る。

委員会だより

投稿を待っております

編集委員会

皆々様のお手元に年四回お届けしています会報のスタッフ一同は、より充実したものをお届けできますよう、一生懸命努力いたしております。行事予定、見学記等どうぞお楽しみ下さい。今号より「泉」欄をもうけました。お気にとまったこと。身の廻りの出来ごとなど、どうぞ沢山お書き下さい。郷土研会報も一段楽しい立派なものに作りたく思っております。

野草、見学記その他すでに沢山ご投稿頂き厚く御礼申し上げます。

大勢の方々からのご投稿を重ねてお願いいたします。

第41号（No.6）　酒々井町郷土研究会々報　昭和61年7月1日（火）

郷土研行事案内

61年7月～9月

	7月	8月	9月
古文書学習会	5日（土）午後1時30分 中央公民館	休み	13日（土）午後1時30分 中央公民館
石仏調査	休み	3日（日）午前9時 集合 中央公民館（雨天中止）	14日（日）午前9時 集合 中央公民館（雨天中止）
名勝探訪	7月12日（土）午後1時 京成酒々井駅集合 成田山大塔 ― 霊光館 ― 成田山公園 （雨天中止）	休み	9月21日（日）午前8時 25日（木）京成酒々井駅集合 江戸川方面 浅草道道標→北野神社→常灯明→慈恩寺道道標→小岩関所跡→影向の松→名主屋敷→香取神社→郷土資料室 （雨天中止）
文化財愛護	7月20日（日）午前8時 現地集合（雨天中止）代替7月27日（日）午前8時 上岩橋貝層・横穴古墳の草刈清掃		
郷土史講座	7月16日（水）午前9時30分　中央公民館 「日本の苗字」　婦人会と共催 講師 駒沢大学名誉教授　渡辺三男先生		
県外見学会	9月18日（木） 出発 午前 7:00 ― 光ドライブイン前 〃 7:05 ― 日栄クリーニング前 〃 7:10 ― 中央公民館前 見学地 茨城県真壁町 仏正寺 ― 雨引観音 ― フラワーパーク 定員90名　会費 ¥4,500円 申し込み ― 申し込み方法が変わりました。下記のようになりましたのでよろしくお願いします。		

お知らせ

今回より見学会の申し込みの方法が変わりました

従来の町史編さん室での電話その他による申し込みは受付けません。

受付け日時　8月1日（金）、8月6日（水）の両日　午前 10:00 ～ 12:00　午後 1:00 ～ 4:00

受付け場所　中央公民館ロビーにて　　**予約金**　¥2,000円　キャンセル時はバス代としていただきます。

キャンセルについて　キャンセルは旅行日の1週間前（9月11日）までにお申し出下さい。それ以後になりますと、昼食の取り消しが出来ませんので会費¥4,500円全額をいただくことになります。できるだけ代理の方をきめて下さい。

キャンセル受付け　会田秀雄宅

編集後記

薄着の夏は、殿方の目を楽しませる季節。でも女性の努力は大変。少しでもスマートにと励むのですが、元の木阿弥に― 郷土研も夏と共に変身の始まりです。ご協力下さいますようお願い申し上げます。ご意見お聞かせ下さい。お待ちしています。

暑中御見舞申し上げます

運営委員一同

新入会員紹介

503	京須善太郎
504	飯沼　つね
505	松井　ちはる
506	若井　秀子
507	石坂　沢江
508	水本　昌子
509	岩崎　利美
510	斉藤　三代治
511	尾畑　真津江
512	坂田　珠愛